

て、曹洞宗に属する。享保十五年祇陀寺第十  
九代眠岩が、開祖大智祖恩の爲に創立したも  
の。明治十二年庵號公稱を許され、大正四年  
六斗林から今の地に轉じた。

**エイシヨウイン** 永正院 金澤堀川に在つ  
た曹洞宗に属した。鈴木昌三派の仁王座禪を  
行ひ、その輩の隨一と稱せられた。是を以て  
萬治二年藩は命じて之を破却せしめた。

**エイシヨウジ** 永昌寺 金澤曹洞宗寶圓寺  
の塔頭であつた。慶長十八年寶圓寺四代草山  
繁應の創立。舊藩中は藩費によつて營繕せら  
れたが、遂に無檀無住となり、明治五年十一  
月七日に廢せられ、翌年石川郡鶴來の一閑院  
をその遺地に移轉した。

**エイシヨウジ** 永照寺 河北郡太田に在つ  
て、眞宗東派に属する。淺加久敬の道程記に、  
『太田村。左の方に延正寺といふ寺あり。』と  
いふものは永照寺の誤である。

**エイジヨクザツキ** 榮驛雜記 富永數馬全  
昌著。一説入江八郎右衛門昌喜合著。延寶元  
年以降藩士の諸役を命ぜられたる次第、家督  
相續、加増知減知、役儀免除、處罰等のこと  
を編年に集録してある。但し文政乃至天保は  
津田宇兵衛の書續である。

**エイセイジ** 永誓寺 羽咋郡大福寺(部落  
名)に在つて、眞宗東派に属する。

**エイセイジ** 永誓寺 珠洲郡折戸に在つて、  
眞宗東派に属する。

# エイ—エキ

此寺昔は教院なりしが、妖怪の爲に住持を取  
殺すこと度々也。依て住持する人なし。然る  
處貞和の頃、同國永光寺瑩山の弟子に、月庵  
といふ僧此寺に住んで、或夜客殿に座禪して  
座せしに、其蒲の頃震動して、眼星の如くなる  
もの顯れ出る云々。拂子を以て打ち給へば、  
忽ち消失せにけり。夜明けて里人來り見れば、  
禪師の恙なき事を不思議に思ひ、様子を尋ね  
見るに、後の山に深き池あり。其水の面に幾  
年ふるとも知れぬ一丈餘りの蟹の甲、八つに  
破れて死に浮みてあり。その後妖怪なし。則  
ち月庵を中興開山とす。』とある。

**エイセンジ** 永禪寺 珠洲郡神社の  
内の小字。

**エイゾウ** 永三 ↓カッターエイゾウ 勝田  
永三。

**エイソウイン** 榮操院 加賀藩主第十二代  
前田齊廣の側室小野木氏の法號。詳しくは榮  
操院文明月海大姉。

**エイタイバシテイ** 永代橋邸 元和の初か  
ら江戸に於ける加賀藩の抱屋敷とし、米廩を  
置いた所である。廣さ三萬千七百歩。貞享三  
年幕府の收める所となつた。その米廩は、是  
より先に置いた深川倉屋敷に轉せしめたもの  
のやうである。

**エイツウジ** 榮通寺 羽咋郡羽咋に在つて、  
眞宗東派に属する。

**エイネイサイブンシユウ** 櫻邊齋文集 富  
田景周著。著者歿後八年にその子景煥が先考  
の遺稿を集めて上梓したもので、巻初に佐藤  
一齋の序があり、第四卷に至るまでは五言古  
七言古・五言律・五言排律・七言律・五言絶・七  
言絶凡べて三百四十二編の詩集である。第五

卷以下の文集であることは目次で知られる  
が、果して出版されたものであるかどうかは  
判明せぬ。

**エイネンジ** 永念寺 能美郡小松に在つて、  
眞宗東派に属する。初め妙立寺と號したが、  
安政三年永念寺に改めたとある。

**エイバイニヒヤクイツシユ** 詠梅二百一首  
一冊。慶應三年高橋富兄著。梅花の題詠二百  
一首を集めて、この時創立した卯辰山の天満  
宮に奉納したものである。

**エイフクジ** 永福寺 金澤八坂に在  
つて、萬松山と號し、曹洞宗に属する。天正  
中奥村永福の建立で、富山光嚴寺の僧郷雲州  
札を寺主とした。塔頭源性院は十代州安の弟  
子慶察の建立したものであつたが、明治六年  
破却した。

**エイフクジ** 永福寺 鹿島郡河崎に在つて、  
眞宗西派に属する。

**エイフクジ** 永福寺 もと鳳至郡曹洞宗總  
持寺の塔頭傳法庵に属し、文明十二年可屋良  
悅の開創に係る。明治四十一年に至り輪島町  
鳳至町に移つて、同所に在つた阿彌陀佛堂を  
併合した。

**エイホウジ** 榮芳寺 鹿島郡吉田に在つて、  
曹洞宗に属し、龍性山と號する。嘉吉二年同  
郡小島惠眼寺三世大樹祥椿の創立する所とい  
ふ。

蓋が一に永樂齋といはれ、その製品が加賀永  
樂といはれるのはこれによる。その齋は初め  
山代春日山に在つたから、『春日山』『於春日  
山永樂造』『加陽春日山』など、銘し、後同村  
越中谷に移つて『於九谷永樂造』と印款した。

**エイリンジ** 榮林寺 石川郡七原に在つて、  
眞宗東派に属する。もと道場であつたが、明  
治十一年八月寺號の公稱を許された。

**エイリンジ** 榮林寺 鹿島郡在江にあつて、  
眞宗東派に属する。能登名跡志に、『在江村の  
一向宗の榮林寺に、聖德太子の靈像あり。』と  
記する。

**エイロウ** 永牢 死刑に次ぐもので終身禁  
錮である。亂心ながら主人に容易ならざるこ  
とを申懸け、遂に公事場に出訴したるもの、  
不屈の所行がありたるを以て奉行から諭示せ  
られたにも拘らず、その命に背いて落文した  
者、亡氣にて放火した者、地位ある人に對し  
て不法を働いた者等に科せられ、或は特に死  
一等を減じて永牢にしたものもある。

**エオン** 惠温 石川郡北安山眞宗東派明達  
寺の僧。迎接庵と稱し、高倉學寮に學び、寮  
司に進み、初めて悉曇を講じ、加賀法論の際  
はお助け方に屬し、亦墨竹を講じた。天保十  
三年七十八歳で歿。

**エガミサクダユウ** 江上作太夫 元和元年  
前田利常に仕へた。子孫相繼いで藩に仕へる。

**エガミヤスナリ** 江上保枝 通稱清左衛門。  
寛政三年養父作太夫の遺知百五十石を襲ぎ、  
改作奉行・御勝手方に任じ、享和三年五十石  
を加へ、文化四年物頭並に進み、八年十二月  
廿三日大坂に於いて歿した。

# 八九

エキ 驛 (一)加賀能登の古驛一驛の制は